



# 三重中央だより

当院の理念(Principle) ●いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。



## 巻頭言

津地区医師会  
会長 荘司邦夫

私たち地区医師会にとって三重中央医療センターの存在は果てしなく大きなものです。国から各種の認定や指定を受けられ住民の健康を守るために日夜活躍されてみえます。その内容につきましては先号で久居一志地区医師会会長の棚橋先生が書いておられますので省略させていただきます。

医療そのものの在り方が病院完結型から地域完結型へと急速に変化してまいりました。それに対応して病院が受け持つ急性期医療の機能と在宅医療を行う医療施設や介護施設との機能分化と連携がますます重要かつ必要となってきました。その真ん中に立って仕事をさせていただくのが地域医師会の大きな仕事の一つと考えております。

また、今後起こるであろう東海・東南海巨大地震など、この地域の大規模災害時には、おそらく三重大学のあたりは海に近いこともあり、当地の最大の拠点病院としての働きは山の手にある三重中央医療センターになるであろうとされています。

災害時に我々地域医師会としては何が出来るか、どこまで出来るかを行政とともにいろいろ話し合いを重ねています。そして地域医療支援センターである三重中央との連携をますます密にしていかなければならないと心から願うところでもあります。また、この

地域の二次救急体制においても、その中心的な働きについて、いつも感謝しております。

さて、先日三重中央医療センターの市民公開講座についてお話を聞きました。

一定の場所、一定の時間に講座を開くのではなく、「え！出前で！」

「10名以上なら講座を出前出張してくれるの？」

その発想の転換の素晴らしさにおどろきました。

今後の「地域のセンター病院としてのあるべき姿」の方向性を示され、実行してみえることに敬意を表します。

「待ち」の姿勢ではなく、積極的に「攻め」の姿勢で地域住民の健康を病気になる前に(マスコミ的ではなく)正しい予防知識として、正しい予防医学として住民に知っていただき健康生活に役立ててもらおうとのお考えと拝察いたしました。

そして、その講演内容のボリューム、バラエティーに富んだ演題の数々をみて再び驚きました。

各先生方をはじめ職員の方々は、ただでさえ日常診療に極めてお忙しいと思いますが、病院が一丸となってこの事業に取り組まれている姿は今後の大病院のあるべき見本になると考えます。

しかしこれを維持していただくためには課題もあろうかと存じます。何と言っても医師不足の現在、我々医師会はあらゆる機会を通して三重中央医療センターへの医師の増員を各界にお願いし、地域の中心拠点病院としてこの立派な姿勢で今後もご活躍頂きたいと節に願っています。

## 「認定看護師」をご存知ですか？

認定看護師とは、「日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、あるいは特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者」をいいます。

今回は、三重中央医療センターで活動する8名の認定看護師を紹介いたします。

### 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

「脳卒中の患者様やその家族の方々が、再びその人らしい生活が送れるように支援させていただきます」

井口 美菜子

みなさん、脳卒中という病気をご存知でしょうか。脳卒中には大きくふたつのタイプがあります。血管が詰まる「脳梗塞」、血管が破れる「脳出血」、動脈瘤などが破れる「くも膜下出血」です。どちらもその発症は突然であり、生命の危機に至ることがあります。生命の危機から脱したとしても、損傷を受けた脳の場所や範囲によって、意識障害や運動機能障害、失語症、嚥下障害、高次脳機能障害など、様々な障害を併発し、自立した生活が困難になることが多い病気です。日本における死因のうち、脳卒中は第3位から第4位になりましたが、寝たきりや介護が必要になる原因は、第1位を占めています。食生活の欧米化から、高血圧、糖尿病、高脂血症、心臓病などの生活習慣病の増加や、高齢化社会に従い、今後も患者数が増加することが予想されている病気です。

私は、2013年7月に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得しました。三重県では5人目になり、当院では1人目の認定看護師になります。私は、ICU(集中治療室)に勤務しています。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として、発症

直後の脳卒中患者様が、重症化しないためのモニタリングと、脳への影響に対する病態予測を行い、科学的根拠に基づいた看護の提供を行っています。また、患者様の障害に応じた脳卒中リハビリテーションを早期から実施し、活動維持、廃用症候群予防、合併症予防に努めています。患者様個々の障害に合った支援を行うために、主治医、担当看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、様々な職種のスタッフとの連携にも力を入れています。

私の看護の目標は、脳卒中患者様やその家族の方々が、再びその人らしい生活が送れるようになることです。微力ではありますが、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として、ひとりでも多くの脳卒中患者様、家族の方に寄り添い、入院から退院、退院後まで支える脳卒中看護を実践していきたいと思っております。



### 感染管理認定看護師

「広げよう感染管理の輪」

近澤 香織

私は、2013年の7月に三重県内で40人目の感染管理認定看護師となりました。当センターでは、2人目の感染管理認定看護師となります。

私は、三重県立看護大学の感染管理教育課程で8ヵ月間感染管理に関することを学んできました。東は千葉県から、西は大分県や福岡県から来た研修生と仲良く、様々な研修を行ってきました。全国各地の研修生と話をすることで、当センターの良さを再認識し、当センターに来られる患者様、当センターで努めるスタッフ1人1人を感染源から守りたいという使命を持ち戻ってきました。

現在私は、ICU(集中治療室)に所属し、手術後や外傷を負われた方の看護実践を通じて、感染管理活動を現場スタッフと共に行っています。入院中の患者様には、治療の為の点滴の管やおしっこの管、呼吸を助ける為の管が必要となることもあります。しかし、体内に人工物である様々な管を挿入するということは、感染を誘発する原因となりかねないのです。治療として必要な管なのか、患者様の為に本当に必要なものなのか、患者様のQOLの妨げになっていないかなどを評価し、適切な治療が受けられ、不必要な感染を起ささないように努めています。

“笑顔はうつる”とも言われていますが、感染という言葉を聞くと、嫌悪感を抱く方がほとんどだと思います。感染は誰しにも起こってはならず、起こしてはいけないと考えます。病原菌の感染連鎖を起さないように、当センターに関わる方々みなさんが少しでも安心し、良質な医療が受けられるように笑顔を感染させていきたいと考えています。

まだまだ、駆け出し者ですが、今後共よろしくお願いたします。



## 感染管理認定看護師

## 「言うは易く行うは難し、感染制御」

雲井 直美



私が「感染」ということを認知したのは、思い出すと看護学校に入ったばかりの頃でした。当初、同じクラスのなかで〇〇ちゃん、親戚の子に水痘「みずぼうそう」もらったみたいだよと噂が流れていました。まるで他人事のように聞いていましたが、前の席の子が休むようになったとき、なにか？嫌な予感がしたのを覚えています。が、時すでに遅しとはこのことで、案の定わたしも休むハメになりました。家族内感染は防ぎようもなく、たちまち弟たちにも伝播しました。当時はまだ何も知識がなかったとはいえ、知らない間に病気に罹っていたなんて、思いも寄せませんでした。

時を経て、感染症や感染対策に関する分野も大きな進歩を遂げていますが、依然とその脅威が続いていることも事実です。2009年の新型インフルエンザパンデミック(世界的流行)を皆さんも目の当たりにしてきたことでしょうか。この時は、実際にセントレア(中部国際空港)への派遣応援、また渡航歴のある方の発熱外来などの対応に携わりました。普段は、看護師として主に病院環境や手指衛生などの感染対策活動を中心におこなっていますが、これらは医療者だけがこなう特別なことではありません。わたしたちにできること、それは公衆衛生の一環として、手洗いをおこなうとか、カゼや胃腸炎のときはお見舞いを控えるとか、極めて常識的なことを実行するだけで、病院や地域の感染防止につながることを是非知って頂ければと思います。また、感染管理というお仕事は、他の分野と違い、表舞台に立って直接患者さまと接する機会は少ないですが、病院の縁の下で微力ながらも活動している看護師がいるということをご理解頂けると幸いです。

## 糖尿病看護認定看護師

「今始める健康生活が未来のあなたと、その家族の健康を守ります」  
～健康生活、いつ始めるの？ 今でしょ!!～

赤塚 幸子

日本人の糖尿病のタイプはほとんどの方が2型というタイプで、生活習慣や遺伝などが関与されているとされています。もともと日本人は欧米人に比べて、インスリンの分泌が半分ほどしかありません。ですから日本人は、少しの肥満でも働き盛りの壮年期の年代に、糖尿病を発症しやすいのです。今や飽食の時代、ちょっと気を許すと、つい高カロリーで過食となります。それに加え運動不足も大きく影響していると考えられます。今や40歳以上の壮年期では、4人に一人が糖尿病か、それが強く疑われる予備軍です。

しかし糖尿病と診断されても、初期にはほとんどの方が自覚症状はありません。発症年齢は働き盛りの壮年期に多く、つい仕事を優先し、自身の健康管理が後回しになる傾向にあります。また糖尿病になってしまったら、一生食べ物の制限や、薬が必要・・・などのイメージを持たれ、せっかく、健康診断などで糖尿病が早期に発見されても放置される方が多いようです。糖尿病の怖さは、自覚症状が無くとも知らず知らずの間に、高血糖が全身の血管を固くさせ、動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞、脳梗塞、そして糖尿病網膜症などの視力障害や、糖尿病腎症による人工透析が必要になる場合もあります。糖尿病足病変を起こして足を切断する方も見えます。

今一度、ご自身やご家族の健康管理を意識してみてください。そしてまず一つ、健康のため、良い生活習慣をスタートしてみてください。大きなことから始めなくても良いのです。小さな一歩をまず初めて見て下さい。そして、誰かに、健康宣言をしてみましょう。一人で決意するより、周囲に伝える事で、応援してくれる仲間を作る事が成功の秘訣です。人間とは弱いもの、長年にわたる生活習慣を変えるのには、周囲の皆さんの応援も必要です。ご家族が見える方は家族ぐるみで健康生活をスタートしましょう。いつ始めるの？今でしょ!!ですね(\*^。^\*)。

当院では、糖尿病外来を通院中の方に、糖尿病を専門とする看護師が、フットケア外来、透析予防外来、糖尿病看護外来を予約制で行っています。外来日が限られているため、まだまだ、多くの患者様と関わる事はできませんが、ご希望の方は是非、糖尿病主治医にご相談下さい。患者様、そのご家族の気持ちに立って療養支援を行わせていただきます。



## 新生児集中ケア認定看護師

### 「あかちゃんの声聴く」

藤代 朋子



新生児集中ケア認定看護師は、NICU（Neonatal Intensive Care Unit）と呼ばれる新生児集中治療室で主に活動しています。

新生児集中ケア認定看護師は、出生・入院から数日間の急性期にあるハイリスク新生児を対象として、知識と技術を用いた看護ケアを提供し、救命だけでなく新生児の成長を助けるケアや、両親や家族が早期に親子・家族としての関係を築いていく支援を行っています。NICU内には、あらゆる医療機器に囲まれて、声も出せず、泣くこともできないあかちゃんがあります。一方で急性期を乗り越え、大きな声で泣いて、抱きあげてくれる手を求めているあかちゃんもいます。私は、あかちゃんへのケアには、言葉にならないことばに耳を傾け、サインを見逃さず、あかちゃんひとりひとりに向かい合うことがとても大事だと考えています。ケア中以外にも、タッチングを通してあか

ちゃんと触れ合い、保育器越しにじっとあかちゃんを見つめ、保育器の小窓からあかちゃんに語りかけます。すると、あかちゃんは必ず反応を示してくれます。あかちゃんの傍に寄り添い、呼吸数や心拍数の変化、眉間のしわなどわずかな表情の変化を観察することで、初めてあかちゃんの声や反応を“聴く”ことができ、ケアにつなげることができるのです。そして、その受け取った声をご両親にも届け、ご両親と一緒にあかちゃんの気持ちに寄り添います。

もう一つ大事な活動の中に、看護師の指導・相談があります。スタッフの相談の答えをとともに見つけながら、あかちゃんの気持ちを代弁し、なにがあかちゃんにとってより良いケアかを考えていける仲間を育て、増やしていくことも大事な私の役割です。

病棟間を横断するような役割はあまりありませんが、入院対象となるケースの出生に立会ったり、搬送入院では医師とともに新生児搬送救急車（すくすく号）に同乗し、早期からのケア介入も積極的に行っていきたいと思っています。

## 皮膚・排泄ケア認定看護師

### 「ストーマケアは、わたしの看護の原点」

谷口 真里

みなさん、こんにちは。わたしは、皮膚・排泄ケア認定看護師の谷口真里です。院内では、褥瘡（床ずれ）対策をメインに活動しながら、看護外来ではストーマ外来を担当させて頂いています。

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷ケア・ストーマケア・失禁ケアについて専門の教育を受けた看護師で、具体的な役割は次の通りです。

#### 【創傷ケア】

##### ◎褥瘡（床ずれ）

多職種と協働し、褥瘡発防止と早期治癒を目指して活動しています。

皮膚科医師、薬剤師、管理栄養士、看護師長らと共に、褥瘡回診を行っています。回診では、多職種で最善の処置やケア方法を考え、より質の高いケアの提供とスタッフ指導を行っています。

##### ◎術後の傷、ドレーン、瘻孔などのスキンケア

医師とともに、傷が早くきれいに治るためのお手伝いをしています。

#### 【ストーマ（人工肛門・膀胱）ケア】

◎手術前～社会復帰に至るまで、ストーマやストーマ造設後の生活についての説明、退院後のストーマケアのサポートを行っています。ストーマを造設しても、手術前と同じような生活を送れるよう、その人に合った装具の選択やスキンケアを指導しています。

※ストーマ外来（毎週木曜日 9時～15時 完全予約制）

#### 【失禁ケア】

◎排泄障害によるトラブルに対して、ケアのアドバイスを行っています。

この3領域のなかでも、ストーマケアは私の看護の原点です。認定看護師を目指したきっかけも、ストーマを造設された患者さまとの出会いからでした。外来では、ストーマの診察だけでなく、ストーマをもつ方々が社会復帰をされていく様子や元気に趣味を楽しんでいる姿をみると、喜びを感じるとともに、わたしも元気を頂いています！



## がん化学療法看護認定看護師

「抗がん剤治療を続けながら、  
充実した生活を過ごせるようお手伝いします」

葛原 三恵

皆さんは、がん化学療法看護認定看護師という資格を耳にされたことはありますか？がん化学療法とは抗がん剤治療のことで、認定看護師とは半年間学校で勉強し、試験に合格した看護師のことです。がん化学療法看護認定看護師の役割は、抗がん剤治療



を受ける患者さま、ご家族さまを支え、治療中の安全を守り、抗がん剤の副作用が少しでも和らぎ、治療を続けながら充実した生活を過ごしていただけるようサポートすることです。具体的には、抗がん剤の副作用症状の観察や、安全に抗がん剤を点滴するための環境を整えることです。

最近の抗がん剤治療は、外来で行われることが多く、抗がん剤の種類も増えていきます。抗がん剤の副作用というと、吐き気や脱毛などがイメージされますが、この他にも皮膚や爪の症状、便秘、しびれなど様々な症状があります。患者さまは副作用症状の他にも治療の悩みや病状の不安を抱えながら、日々の生活を送り治療されています。そのため、患者さま一人一人に合わせた看護を行い、治療が継続できるよう取り組んでいます。また、入院中の看護が引き続き外来でも行えるよう、退院前に病棟を訪問し外来治療についての説明も行っています。その他にも院内の看護師を対象とした学習会や患者さまが対象の講演会も行っています。

昨年2月からは、がん看護相談外来を開設しています。がん看護相談外来は、当院に受診歴のある患者さまを対象とし、治療や病状で不安なこと、つらい症状、生活の困りごとなど、1時間じっくりと相談を受けています。患者さまからは「今までで分からなかったことがよく分かった」「悩みをゆっくり相談出来てよかった」との声をいただいています。がん治療の副作用や不安などの悩みをお持ちの方は、一度お越しください。

今後も抗がん剤治療を受ける患者さま、ご家族さまをサポートできるよう努力していきたくと思います。

## がん性疼痛看護認定看護師

「身体の痛みもこころの痛みも我慢せずに、  
一緒に和らげる方法を考えましょう」

山下 めぐみ

小学生の頃に、家族ががんを患いとても激しい痛みと闘いながら療養生活を送っていました。これが私にとっての初めての「がんの痛み」との出会いでした。何とかしてこの痛みを和らげてほしいと願いながら、「がんは何で痛いのだろう？」、「‘モルヒネ’って怖い薬じゃないの？」と思い悩んだことを今でも思い出します。

この「がんの痛み」出会いから数年後に、看護師となり、がんの痛みでつらい思い、体験をしておられる多くの患者さまと出会いました。そして、この「がんの痛み」の看護を専門とするがん性疼痛看護認定看護師の資格を取りました。

痛みは「第5番目のバイタルサイン」(生命徴候)と言われます。つまり、痛みは血圧、脈拍、呼吸数、体温などと同様に生命に関わる重要な指標とされています。痛みがあると、眠れない、ご飯が食べられない、笑えない、気分が落ち込む等と身体に悪影響を及ぼします。そして、痛みがあることで、その人らしい生活ができなくなってしまいます。そうならないためにも、痛みに応じて薬やケアで和らげる方策を取ることが必要とされます。

薬では、医療用麻薬を使用することも多くあります。医療用麻薬は決して怖い薬ではありませんが、「麻薬って悪い薬ですよね？」、「モルヒネですか？」を昔の私のように疑問や不安を持たれる方が多くおられます。患者さまやご家族が感じられている疑問や不安も聴かせて頂き、安心して治療を受けて頂くことを大切にしたいと思っています。

また、がんを患う患者さまが体験する痛みは、身体の痛みだけでなく、不安や恐怖、心細さなどのこころの痛みがあります。さらに、仕事のこと、家庭のこと、家族のことなど様々な悩みや気掛かりなことが、患者さまの痛みにつながります。私は、その痛みを和らげるために、主治医や病棟看護師、また緩和ケアチームの様々な職種のスタッフと連携をして、患者さまやご家族が安心して快適な療養生活を過ごして頂けますようお手伝いをさせていただきます。

皆さん、身体の痛みもこころの痛みも我慢せずに教えてください。一人で悩まず、一緒に和らげる方法を考えましょう。



## 「転ばぬ先の杖」川柳 最優秀賞・優秀賞発表

最優秀賞

隠れみの つまずいて知る怪我のもと

山下 正則 様

優秀賞

これぐらい 甘い判断 ケガの元

行方 幸子 様

「大丈夫!! その大丈夫は大丈夫?」

薬剤師  
中村 卓巨 様

この度、当院では入院中の転倒を防止するために、医療者だけでなく患者様やそのご家族の方々と一緒に良い知恵を出し合い、注意し合うため、「転ばぬ先の知恵」と称して川柳を募集しました。

その結果、職員より一作品、入院・外来患者様及びご家族より三十五作品、合わせて一四六作品の応募がありました。どの作品も素晴らしいのですが、投票により十位までの作品を「転ばぬ先の知恵賞」に選ばせていただきました。選ばれた作品の中から最優秀賞、優秀賞の三作品を紹介します。

多くの皆様にご協力いただきありがとうございました。

医療場面における安全は、医療者と患者様との協同によって守られることが多くあります。患者様の安全のため、当院職員一丸となって努力したいと思います。

## クローバー友の会発足!

三重中央医療センター 院長 森本 保

三重中央医療センターでは、地域の皆様の健康増進をお手伝いするため、「三重中央医療センター友の会」を発足させました。当院のシンボルマークであるクローバーにちなみ、「クローバー友の会」と命名しました。この会は、国立病院機構三重中央医療センターの理念に基づき、安心で質の高い地域医療の構築に向け、会員の皆様と当院職員が勉強会等を通して共通の認識を持ち、理念実現に向け、両者一体となって努力することを目的とします。

この目的のために、当院は「出前! 市民公開講座」をはじめとした各種市民向け講演会を企

画し皆様に紹介します。会員の皆様には積極的に各種講演会などに参加し、医療に関する知見を深めていただきます。

また、皆様と当院職員の懇親の場を設け、年に1回程度意見交換をする機会を持てるよう考えています。

積極的に参加された方には御褒美特典が付くよう現在検討しております。

以上のような趣旨で運営し、年会費は不要ですので、皆様の積極的な参加、会員登録をよろしく願います次第です。

# 卒業にあたって

三重中央看護学校 3年生 川北 智奈美



私たちは2011年4月、三重中央看護学校に入学しました。毎日の学校生活は専門的な知識など覚えることもたくさんありましたが、とても充実していました。単位認定試験に向けて夜遅くまで勉強をしたり、看護技術を習得するために放課後仲間と一緒に練習に励んだりしたことは良い思い出です。また、たくさんの行事の中で一番印象に残っているのは2年次に参加した看護交流フェアです。私たちと同じ国立病院機構の附属の学校で看護師を目指す学生がこんなにも大勢いるのかと驚きました。また、認定看護師の方から様々な看護の専門分野の話を聴くことができ、私も専門的な知識や技術を身につけた看護師を目指して頑張ろうと改めて思いました。

私たち看護学生にとって貴重な体験となり、大きく成長できたと感じたのは臨地実習です。最初の実習では、緊張と戸惑いで患者様と上手く話すこともできなかったことを覚えています。校内の演習とは違い、実際に患者様に援助させていただく難しさを実感しました。しかし実習を重ねていく中で、患者様それぞれの個性を配慮した援助を考え、実施できるようになりました。

私は、入学当初から身体面だけでなく、精神面のケアができる看護師になりたいと思っていました。3年次の実習で受け持たせていただいた患者様に、どうすれば患者様らしく少しでも満足した入院生活を送ってもらえるのか私なりに考え、これまでの生活習慣や趣味を取り入れながら日々関わらせていただいたところ、患者様の笑顔や会話がぐんぐん増え、病気への不安な気持ちも話して下さるようになりました。辛い状態にありながらも、コミュニケーションや援助を通して患者様が見せてくださった笑顔や言葉は、今でも忘れません。実習最終日に「絶対いい看護師さんになれるよ。頑張って」と言っていただき、必ず精神面のケアができる看護師になろうと強く感じました。

3年間の私たちの成長には、未熟な学生を快く受け入れてくださった患者様やご家族、実習指導者、学校の先生、そして家族と多くの方々の支えがあったからだ実感しています。また、共に同じ目標に向かい、励まし合った仲間がいたからこそ、卒業を迎えることができました。この思いを胸に、より良い看護が実践できるよう今後も頑張りたいと思います。3年間ありがとうございました。

## 「クローバー友の会」 会員募集

「クローバー友の会」規約ならびに申し込み用紙は、各ブロック受付、病棟などに備え付けてあります。規約をお読みいただき、賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいたします。賛同いただける方であれば、患者さんに限定せず、どなたでもご参加いただけます。登録と同時に会員証をお渡しいたします。なお、記入いただいた個人情報は本会の業務以外には使用せず、安全かつ適切に管理いたします。

三重中央医療センター  
クローバー友の会事務局

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5  
TEL 059-25-1211 代  
地域医療連携室

デザイン案

三重中央医療センター クローバー友の会

会員にご登録いただきありがとうございます。  
講演会に参加いただくことに1スタンプ押印いたします。  
(スタンプ数による特典は別紙公表いたします。特典は変わることがあります。)

■会員No. 0000

住所 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30

三重中央医療センター  
地域医療連携室

# 輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外でも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

臨床工学技師 佐藤 智明



寒かったり暖かかったりの毎日ですが、暦の上では春、芽吹きの季節です。

病院内には医師や看護師をはじめ、多種多様な職種が患者様の治療に携わっていますが、その中には患者様に知られることなく治療に携わる職種があります。

その一つが我々臨床工学技士です。

自己紹介をする際、「私は臨床工学技士です」と言えば必ず「何をする人なの?」と返ってきます。そこで今回は臨床工学技士の業務紹介をしていきたいと思います。

まず病院内で良く目にする輸液ポンプ、シリンジポンプが決められた量の薬を正確に投与しているか、電池の寿命は大丈夫か等の点検を行っています。

さらに患者様の呼吸を助ける人工呼吸器に関しても組み立てから点検、1週間に1回病棟で稼働中の人工呼吸器に問題がないかの巡回を

行っています。

また手術室の中でも様々な業務に携わっています。その中でも心臓血管外科の手術は最たるものです。心臓の手術では、心臓内を修復しますが、その際心臓を止めなければいけません。しかし心臓を止めたままでは死んでしまいます。そこで心臓や肺の代わりに人工心肺装置という機械を使って手術の間、患者様の生命を維持しています。

心臓血管外科の手術とは別に循環器内科で行われている心臓カテーテル検査や治療に使われている記録装置の操作も行っております。

現在医療の現場では様々な機械が患者様の治療の為に動き続けています。治療を進めるなかで、患者様のみならず院内のスタッフにも安心して機械を使って頂けるよう日々努力していきたいと思っています。

## シリーズ 医療用語の 基礎知識 2

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

### 診療報酬

〇〇%改正、昨年末、国の予算編成の時期に、ニュースで良くこの言葉が流れていましたね。

診療報酬という言葉はまるで医師の給料のような響きですが、決してそうではありません。診療報酬とは厚労省から告知される病院や薬局での保険医療サービス(保険証を使って受ける医療)の公定価格であり、2年に1回大きな改正があります。この公定価格は全国一律で、病床数や職員数等、様々な要素によって決められています。全国均一で高品質の医療を提供、維持するために、価格競争やサービス低下につながる行為、例えばスタンプカードを作って割引サービスなどという行為は許されておりません。

診療報酬は点数で定められています。1点は10円で全ての医療行為には点数が、また薬には薬価と呼ばれる価格が決められています。診療報酬では、価格だけではなく、△△という指導料は月に1回しか算定できないなど、医療の内容、算定できる条件についても細かく規定しています。みなさんが病院で受診された際に、同じ診察内容なのに窓口で支払う金額が日によって違うことがあるのは、このように算定できる回数を決められている行為があることが原因です。

病院である以上、診療報酬の合計が収入の大部分です。この収入から、医療に関わる部分の経費はもちろん、私のような事務も含めた全ての職員の人件費、病室やホールの暖房代、事務所のコピー代、トイレトペーパーの代金など、全ての経費を支出しています。ですから、診療報酬改正は、病院の経営に大きく影響し、私ども業界人にとっては大事件なのです。

(医事 伊藤啓之)



記念すべき第1回講座が、平成26年1月16日木曜日 14時から イオン津南ショッピングセンターサンバレーにて開催されました。テーマは、「かぜ・インフルエンザから肺炎・結核まで」という内容で、呼吸器科藤本源医師のお話でした。会場には、男女問わず、様々な年齢層の方が来ていただきました。多くはマスクを着用し、かぜ等の予防をされており、時期的にも興味を持って聞いておられました。先生の話は、ユーモアたっぷりであり、質問コーナーではほとんど

の方が質問され、「よくわかりました」と言われていました。1時間30分という時間もあっという間に過ぎていきました。

第2回目の開催は、こころの医療センターにて看護師、看護介助師対象の講座でした。約30名を対象に、谷口真理皮膚排泄ケア認定看護師による「少しの工夫で大きく変わる！快適おむつケア」という内容で行いました。おむつを交換する際、1手間を加えるだけで漏れを防ぐことができる方法や、お湯を使ってオムツの中の蒸れを实际目で確かめる実演には、「おー！えー！」と驚きの声が聞かれていました。「すぐ病棟で活用します」「絶対聞いて損はない講義だと思いました」との声を頂きました。みなさんの反応を見て、もっと多くの方に聞いて欲しい講義であると主催者でさえ改めて実感しました。

この様にして、私たち 三重中央医療センターはどこでも無料で地域の皆様のお役に立てるよう「出前！市民公開講座」に伺います。メニューは現在119種類、お好きな内容を選んで下さい。「おもしろそう！役に立つかも！」と思われた方は是非一度ご連絡ください。お待ちしております。



いよいよ「出前！市民公開講座」がスタートしました。

「出前！市民公開講座」に関するお問い合わせ・お申込み、講座メニューの請求など

■ 連絡先 三重中央医療センター  
地域医療連携室 担当：沼田・平岡  
059-259-1211 (代表)

編集  
後記

春が待ち遠しい今日この頃です。

早いもので、「三重中央だより」今年に入り2回目の発行となりました。

発行にあたり、当院機関紙の編集会議「地域医療推進会議」で如何に皆さん方にわかりやすく読んでいただけるかをこの会議で検討しました。

内容は、津地区医師会長荘司先生から「巻頭言」をいただき、当院への期待等を紹介していただいたのをはじめとし、今回は当院で活躍する「認定看護師」8名がどのような専門的な看護を実践しているのか、紹介させていただきました。

今後も地域の皆さんに実のある情報を盛沢山提供できるよう努力してまいりますのでご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(沼)

発行所

三重中央医療センター  
院長 森 本 保

三重県津市久居明神町2158番地5  
TEL. 059-259-1211  
<http://www.hosp.go.jp/~nmch>

## ●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●

### 津ファミリークリニック

ホームページアドレス：<http://www.tsu-fc.jp>



障純会武内病院、榊原温泉病院と同じグループクリニックとして、平成25年11月に津市押加部町に新規開院いたしました。

当クリニックでは、日本プライマリ・ケア連合学会認定の、家庭医療専門医である医師2名と非常勤の医

師2名が「あなたとあなたのご家族のお医者さん」を目指した診療を行っています。

また、ご自宅で安心して過ごせるよう、定期的にご自宅まで伺い、患者さま、ご家族さまのお気持ちに寄り添い、療養生活をサポートする訪問診療も行っています。

からだやこころのよくある健康問題の多くは当クリニックで対応していますので、お気軽にご相談ください。

院長：成島 仁人  
 医師：常勤医 2名 非常勤医 2名  
 住所：〒514-0039 津市押加部町16-48  
 電話：059-273-5000 FAX：059-273-5001  
 診療科目：内科 小児科 婦人科  
 診療時間：9：00～12：30 14：30～18：00  
 休診日：日曜 祝日 火曜午後 土曜午後

### 津みなみクリニック

ホームページアドレス：<http://www.tsu-minami.com/>



「google マップより」

久居地区に透析医療を提供させて頂こうと4年前に開院しました。現在、60名の透析患者様を診させて頂いています。透析患者様の入院には、三重大学病院、遠山病院、松阪中央総合病院を紹介させて頂いています。三重中央医療センターには外来透析はありませんが、難病の患者様を受けて頂いたり、研究会に参加さ

せて頂いたり本当に感謝しております。今後も久居地区住民の健康増進に貢献できますよう頑張っていきたいと思っております。



【院長】伊與田 義信  
 【住所】〒514-1113 津市久居野村町600-2  
 【電話番号・FAX】059-254-0777・059-254-0770  
 【診療科目】人工透析内科・血管外科  
 【休診日】日曜日、祝日、火・木・土の午後  
 【診療時間】9：00～12：00（月～土）、  
 15：00～18：00（月・水・金）

## 刀根クリニック



平成23年5月に津市香良洲町にて開院し、早や2年半が経ちました。これまで

の内科、消化器内科、糖尿病内科に加え、平成25年4月からは新たに皮膚科、小児科を標榜し、ひとりひとりの患者さんに最適な医療を提供できるよう、総合診療に力を入れております



さらには高齢者社会を迎えるにあたり、往診、訪問診療にも力を入れており、今後、在宅医療に関しましては一層充実してまいる所存であり、更なる医療連携の構築にまい進したいと思っております。

日ごろより三重中央医療センターの皆様には患者様の精密検査、入院加療などに関しまして大変お世話になっており、誠にありがとうございます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

院長：刀根 幸夫  
 住所：〒514-0323 津市香良洲町1875-1  
 電話：059-292-7007 FAX：059-292-6060  
 診療科目：内科、消化器内科、糖尿病内科、皮膚科、小児科  
 診療時間：9：00～12：30、15：30～18：30  
 休診日：日曜、祝日、木曜午後、土曜午後

## 山崎循環器内科



平素は三重中央医療センターにたいへんお世話、ご指導なっています。有難うございます。

三重大学胸部外科等に勤務したあと、H4.4に山崎循環器内科を開院しました。場所は津駅西へ約2kmで観音寺、洪見町さらに河辺町、長岡町の開拓地の中心部にあります。専門としては、循環器科、呼吸器科、内科一般、外科を標榜しています。初めは循環器、呼吸器を中心に地域の医療と考えていましたが、現在では地域のオールラウンドとしての診療と考え、専門によることなく内科系一般、特に最近では高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病から、カゼなど中広

く診療させて頂いています。この所のトピックスは、心房細動と糖尿病の人が多く、心房細動の患者にはどのような抗凝固療法をするか、また、アブレーションへの適応について病院への紹介、さらに、糖尿病の患者には現在たくさんの薬があり、種々のインシュリン注射との組み合わせや食事療法、運動療法についても取り組んでいます。その意味で、病院時代の経験から、治療法を考慮しながら得た知識とノウハウを患者と一緒に治療を考えていく方針で、患者にすぐに還元できるようにしたくしています。

下肢静脈瘤には診断検査はもとより、治療としては硬化療法を取り入れています。

小規模ですが地域に密着した医療を提供したく、各市内の病院と連携をとり、精密検査や手術を行っていただけるように橋渡しに徹したいと考えています。

院長：山崎 順彦  
 診療科目：循環器科・呼吸器科・内科・外科  
 所在地：〒514-0063 津市洪見町577-5  
 電話：059-229-6300 FAX：059-229-6301  
 休診日：木曜日、第3日曜日、祝日、土・日曜午後



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：30	○	○	○	×	○	○	○
15：30～18：30	○	○	○	×	○	×	×



# 外来診療担当表

平成26年2月1日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外) <small>*初診及び紹介患者様は、総合内科で診察いたします。</small>	1診	長谷川【消】	大本【呼】	北村【循】	田中(剛)【糖】	川崎【循】	
	2診	井端【呼】	中久木【循】	竹内【消】	田中(淳)【循】	後藤【糖】	
	3診	新谷(卓)【循】	奥田【糖】	藤本【呼】	渡邊【消】	亀井【消】	
	4診	中谷【循】	子日【消】	田口【消】	岡野【呼】	西井【呼】	
再診内科 (予約のみ)	呼吸器科	4診			井端(午後再診)		
	循環器科	5診	田中(淳)	川崎	新谷(宇)	中久木	北村
	呼吸器科	6診	藤本	井端	井端	大本	大本
	消化器科	7診	子日	亀井	渡邊	長谷川	竹内
	内科	8診		新谷(卓)【循】	後藤【糖】	田口【消】	
		9診	中久木【循】	田中(剛)【糖】	田中(剛)【糖】	田中(崇)【糖】	田中(剛)【糖】
10診		後藤【糖】	加藤【消】	西井【呼】			
神経内科		1診	北川	梶川(予約)	北川	梶川	北川(予約)
		2診	吉丸	北川(予約)	梶川	北川	吉丸
小児科	午前	1診	井戸	NICUフォロー	井戸	NICUフォロー	田中
		2診	NICUフォロー	NICUフォロー	山川(予約)	NICUフォロー	
		3診		山本(初)	山本(初)(予約)	井戸	
	午後	1診	田中(予約)	乳児検診		NICUフォロー	予防接種
		2診	NICUフォロー	2週間・1カ月検診	山川(予約)	NICUフォロー	
		3診	NICUフォロー		山本(初)(予約)	NICUフォロー	(NICUフォロー)
外科		1診	横井	谷川	横井	信岡	谷川
		2診	草深		武内		
整形外科 (予約・紹介のみ)		1診	小川(リウマチ)		小川		小川(リウマチ)
		2診	田中(雅)	浅沼(休診中)	田中(雅)	浅沼(休診中)	長倉
		3診	長倉		小寺		小寺
脳神経外科		1診	霜坂	石田	霜坂	種村	石田
		2診		種村		芝	霜坂(予約)
脊椎・脊髄外科 <small>*診療時間は10:00～14:00までとなります。</small>				*水野			
呼吸器外科				安達		樽川	安達
心臓血管外科			森本		佐藤	ペースメーカーチェック	日置
皮膚科(*休診中)							
泌尿器科 <small>*水曜日の初診及び再来初診の受付時間は8:30～10:00までとなります。</small>		1診		加藤	*加藤(初診)	加藤	加藤(初診)
		2診		岩本(初診)	岩本	岩本(初診)	岩本
産科・婦人科	午前	1診	前田(眞)	前川	前田(眞)	澤木	前川
		2診	澤木	日下	吉村	吉村	日下
		3診	前田(佳)	西岡	西岡・紀平	前田(佳)	
	午後		プレママ外来		プレママ外来	プレママ外来	
眼科(予約・紹介のみ) <small>*水曜日の受付時間は8:30～10:30までとなります。</small>			久瀬		*久瀬	久瀬	久瀬
耳鼻咽喉科	午前(初診)				*伊藤	*伊藤	
	午前(予約のみ)		伊藤				伊藤
	午後(予約のみ)	伊藤	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)		奥田	奥田	奥田	奥田	奥田	奥田
リハビリテーション科		浅沼	田中(雅)	浅沼	小川	浅沼	浅沼
歯科・歯科口腔外科		柳瀬	柳瀬	柳瀬	柳瀬	柳瀬(予約)	柳瀬
看護外来(予約)		がん看護相談外来	がん看護相談外来	糖尿病外来	ストーマ外来	フットケア外来	

\*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30～11:00までです。 \*医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。  
\*当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児検診	予防接種	2週間・1ヶ月検診
月・火曜日 午前診療	水曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・木・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	火曜日 午後診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		
リウマチ外来	未破裂脳動脈瘤 専門外来	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・膿胸	中耳外来 (予約)	プレママ外来	おっぱい外来 (予約)	
月・金曜日 (要予約・紹介)	金曜日 午後診療(要予約)	火曜日(10時～14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	火・木・金曜日 午前診療	月・火・木曜日 午後診療	
整形外科(小川)	脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		